

## 第5章 誤用に対する対策と今後の課題

### 5.1 誤用に対する対策

前章で、筆者は本研究でのデータ結果とその分析に関して述べた。本章では最終章として、本研究で明らかになった誤用とそれらの原因を踏まえ、インドネシア人日本語学習者における同様の誤用を減らすための対策をパターン別に幾つか述べたい。尚、ここではまとめて取り上げなかったパターン5 についても対策を言及したい。

#### パターン3 時間、日付、曜日などと共に使う「今」、「今日」

まずパターン3の時間・日時・曜日に関する誤用であるが、対策としては、学習時において時間・日時・曜日などを導入する際に、教師が留意すべきであろう。「今」を使える場面もちろんある（例：今何時ですか？今何月ですか？）が、使えない場面があることも指導すればよいと考えられる。特に、

**“Sekarang hari apa?”**

今 曜日何

という文をそのまま日本語に直すと、誤用の恐れがある。よって「今」ではなく、「今日」を使うように指導する。

今日は何曜日ですか？

#### パターン4 話し手が話しているその日 パターン7 「今すぐ、今から」or「今日その日」

次にパターンとパターン7 に関して同時に進めようと思う。本研究で明らかになったのは、どちらもインドネシア語の“sekarang”が、「今」だけ

ではなく、「今から/これから」という意味も持っているということである。従って、上に述べた誤用が発生することとなる。対策としては、

B-8) <sup>きょう</sup>,今日は<sup>ともだち</sup>友達とカラオケに行く。

のような翻訳問題であれば、話している状況や今の時点を把握することが重要である。また、

A-2) ( 今 ・ 今日 ) の <sup>ご</sup>午後4時<sup>じ</sup>に、<sup>ともだち</sup>友達と <sup>い</sup>BEC へ ,行きます。

のような問題であれば、日本語では行為が起きるその日の中では、現時点が朝であろうが、行為の直前であろうが「今日」が使える、「今の午後4時」や「今の夜」などの日本語は誤りであり、「今日」を正しく使うように指導すべきである。

#### パターン8 「今から」と「今まで」の使い方

A-19) A 「あなたは <sup>がくせい</sup>,学生ですか。」

B 「はい、( 今日 ・ 今まで ) <sup>がくせい</sup>,学生です。 <sup>らいねんそつぎょう</sup>来年卒業します。」

のような問題であれば、日本語の「今まで」には「今までは A だったが、これからは B だ」のような意味もあるため、「今も A だし、これからも A だ」という場合には、現在の状態を表す「今」を使用するように指導するとよいであろう。

次に「今から」に関してであるが、インドネシア人日本語学習者には「今から」が適当な場面で「今」を使い、結果、不自然な日本語となる傾向が見られるようになると筆者は感じている。次の問題で、今まさに自分の発表をすところだという状況で、

B-14) Sekarang saya ingin mempresentasikan budaya Indonesia.

の“sekarang”を「今」としてしまい、

△私は今、インドネシアの文化について発表します。

となると、不自然さが出てしまう。この場面では自分が今から、すぐに発表するという場面であるから、従って「今から」を使用し、

○私は今からインドネシアの文化について発表します。

としたほうが自然な日本語になる。この点も、教師が指導時に留意すべき点であろう。

### パターン5 過去と比較した、また過去からの流れでの「今」、「今日」、「今回」を使った文

パターン5は、過去を表す前件があり、後件の状態を表す時に「今」、「今日」、「今回」のどれを使うのが適当であるか、という問題である。例えば、

A-6) <sup>こうこうせい</sup> ,<sup>とき</sup> 高校生の時にくらべて、( 今 ・ 今日 ) は <sup>わたし</sup> <sup>おとな</sup> 私は大人になり、  
がまん <sup>つよ</sup> <sup>ひと</sup> ,強い人 *orang pasien* になった。

→\* 「今日」5名

A-7) <sup>いま</sup> ,<sup>たいかい</sup> <sup>さんか</sup> 今までスピーチ大会に参加したことがないが、  
( 今 ・ 今日 ・ 今回 ) は <sup>さんか</sup> ,参加してみる。

→\* 「今」9名

A-11) <sup>きょねん</sup> 去年のスピーチコンテストでは *panitia* じゃありませんでしたが、  
( 今 ・ 今日 ・ <sup>こんかい</sup> ) <sup>わたし</sup> ,今回) は私は *panitia* になりました。

→\* 「今日」4名

A-14) いつもはふつうのラーメン *ramen* を <sup>つく</sup> ,作るけど、( 今 ・ 今日 ・ 今回 ) はちょっとユニーク *unik* なラーメンを <sup>つく</sup> ,作ってみる。

→\* 「今」6名

- A-20) A 「どうして<sup>にほんご</sup>,日本語の勉強<sup>べんきょう</sup>を始めましたか。」  
 B 「<sup>さいしょ</sup>,最初は文字<sup>もじ</sup>hurufがすきだったので、<sup>べんきょう</sup>,勉強を始めました。  
 でも( <sup>いま</sup>今・<sup>けふ</sup>今日 )は日本<sup>にほん</sup>で勉強<sup>べんきょう</sup>したいから、勉強<sup>べんきょう</sup>しています。」

→\* 「今日」 9名

対象者はまず、これらの問題文の前件にある「高校生の時」、「今まで」、「最初は」、「去年は」、「いつもは」などを理解する必要がある。その上で、それに対し後件ではどの語が適当となるかを考えるべきであろう。例えば「去年は」という前件の語に対して、後件は「今年は」、「現在は」、「今回は」などが言える。また、後件は現在の状態や行為を表すので、その場面に応じた正しい語を使用しなければならない。「今回は」という語は様々な場面に適応できるので、指導時にはぜひ学習者に定着させるようにしたい。

## 5.2 今後の課題

筆者は本研究で、時を表す語「今」や「今日」、「今回」、「sekarang」や「hari ini」などの使用に関する誤用分析を行ってきた。しかし本研究を終えて、本研究にはまだまだ課題があることに気づいた。インドネシア人日本語学習者におけるこれらの語に関する誤用の原因は、当初からインドネシア語の母語転移によるものであると筆者は仮定してきた。データ結果を分析する中で、幾つかの誤用に関しては、予想どおり母語転移が影響していることがわかった。しかし他の幾つかに関してはそれが原因であるとは考えられず、また質問紙法のみで調査を実施したため、後日改めて対象者に誤用に関するインタビューなどができなかった。そのために、誤用の原

因も明瞭ではなく、ミスなのかエラーなのかの判別に苦しむデータ結果もあった。

同様に、データ結果の「未使用」に関しても、時を表す語が全く分からずに使っていないのか、間違いを恐れて使っていない（回避）のか、使わなくてもいいと判断して意図的に使っていないのかを、筆者が追求することができなかった。従って今後本研究を進める機会があれば、量的研究と質的研究を組み合わせ、対象者の誤用に関してより深く考察したい。

またアンケート調査でデータを分析していく過程で、アンケートの問題文をいくつか改善したほうが、より明瞭なデータ結果を得られたのかもと感じることもあった。アンケート調査前に筆者が予想していたことと、調査を進めていく中で実際に得たことには、当然と言えば当然であるが違いがあると今になって改めて思う。さらに本研究では、日本語とインドネシア語との比較対照も必要であると感じた。また「今」や“*sekarang*”などの言葉自体も、時代や年代、地域や出身地によって変化している可能性もあり、言語の背景にあるそれぞれの文化も少なからず影響しているものと考えられる。言語によって思考も変わってくるという説（サピア・ウォーフ仮説）もあり、筆者はそれに同調している。社会言語学、対照研究の見地からのアプローチも含め、本研究にはまだまだ研究の余地があると言えよう。

本研究過程では、筆者はインドネシア人母語話者にインドネシア語に関するアドバイスをいただいたが、自分自身のインドネシア語力がまだまだ不足していると感じた。筆者が再び本研究テーマに関して研究できる機会があれば、これらの改善点や課題を踏まえて、より良く、より深い研究を行いたいと思う。